

小学校音楽科における表現と鑑賞の関連を図った指導の在り方

1 はじめに

小学校学習指導要領(音楽)の「指導計画の作成と各学年にわたる内容の取り扱い」には、「表現と鑑賞との指導の関連を図るようにすること」とある。今、表現活動と鑑賞活動の関連をより充実する学習指導の創造が強く求められている。

そこで、小学校音楽科において表現と鑑賞の関連を図ることで、表現の能力と鑑賞の能力を相互に高めあい、児童一人一人の音楽性や音楽に対する感性を豊かにしていく学習指導の在り方を探っていきたくと考え、本研究主題を設定した。

2 研究の概要

表現と鑑賞の関連を図る指導についての考察をし、音楽を知覚し感受することを軸として表現と鑑賞の関連を図る題材の構想、そしてそれにもとづいた題材構成と検証実践を行い、この題材構想の有効性を検証した。

3 研究の内容

音楽科の基礎・基本となるものは、「音楽を感じ取る力」である。

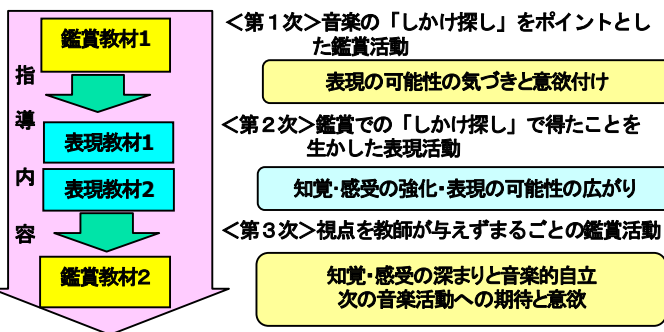
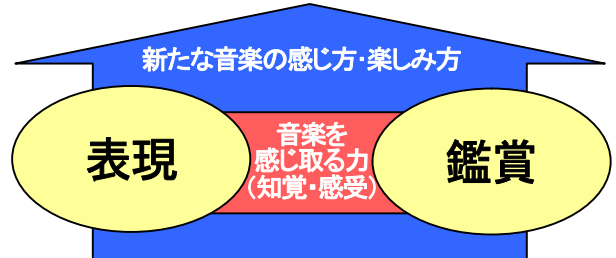
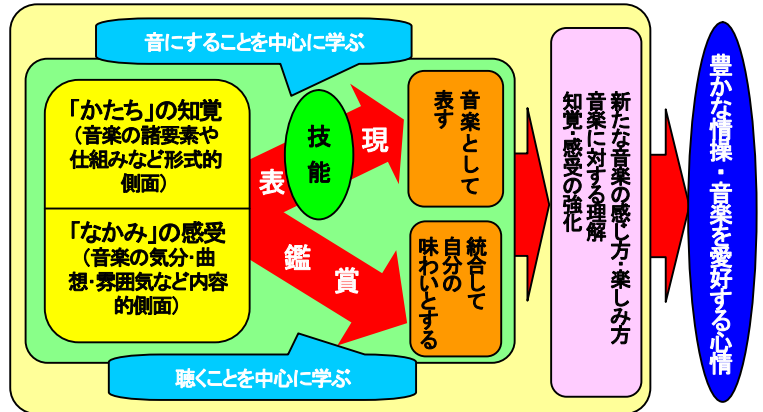
「音楽を感じ取る」とは、「かたち」を知覚し、それによって「なかみ」を感受することといえる。

「音楽を感じ取る」ことを「知覚」と「感受」に分けて考え、音楽科における「表現」と「鑑賞」についてまとめたのが右の図である。

「関連を図る」ことについて、表現の指導において鑑賞を、鑑賞の指導において表現を手段として用いることにより、指導の効果を上げていくということが考えられる。しかしそれだけでは、一方が主、他方が従の関係になったり、単なる活動の羅列になったりする可能性がある。

関連を図る指導が有効に働くためには、領域としての表現と鑑賞をともに貫く軸を確保することが重要になると考える。

その軸になるものが「音楽を知覚し感受すること」つまり「音楽を感じ取る力」であると考えた。授業ではこのことを「音楽のしかけ探し」(音楽を聴いていて、心に伝わってくる・素敵だなあと感じさせるために仕組んであるものを探るといふ意味)という言葉で表した。この軸で貫き、軸を回して表現と鑑賞が連動して動くような学習指導を展開することにより、子どもの「新たな音楽の感じ方・楽しみ方」が高まっていくのではないかと考えた。



そこで、左の図に示すような題材構成を構想した。

まず、第1次では「音楽のしかけ探し」を中心とした鑑賞を行う。そこで、「音楽がこうなったからこんな感じがした」ということをとらえさせる。

そして、第2次ではその鑑賞の「しかけ探し」で得たことを生かして表現活動を行う。

第3次では、鑑賞教材1とは別の曲を用い、鑑賞のポイントを与えずいわばまるごとの鑑賞活動を行う。子どもはここまでの学

習で音楽経験を積んできているので、それを生かして自分の力で鑑賞をしていく、いわば「音楽的自立」をねらう。

「音楽を感じ取る」ことを「関連を図る軸」とし、このような題材構成をとることで次のようなことが期待できると考える。

- ・ 知覚と感受を分けて意識することによって、指導内容をより明確にした学習が構成できるのではないか
- ・ 鑑賞活動で知覚・感受したことが、表現の可能性への気づき・広がりとなり、表現の意欲が高まるのではないか
- ・ 実際に自分が表現を経験したことにより知覚・感受がより強化され、その後の鑑賞で音楽のよさをより深く感じることができるという深まりや、鑑賞や表現の力・次の音楽活動への期待や意欲が高まるのではないか

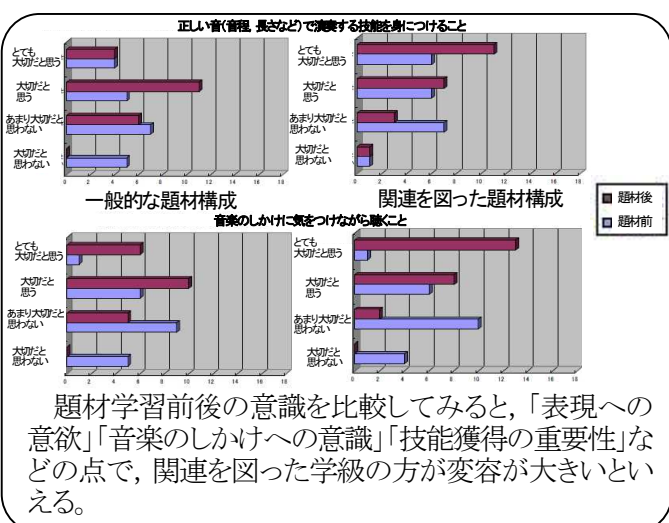
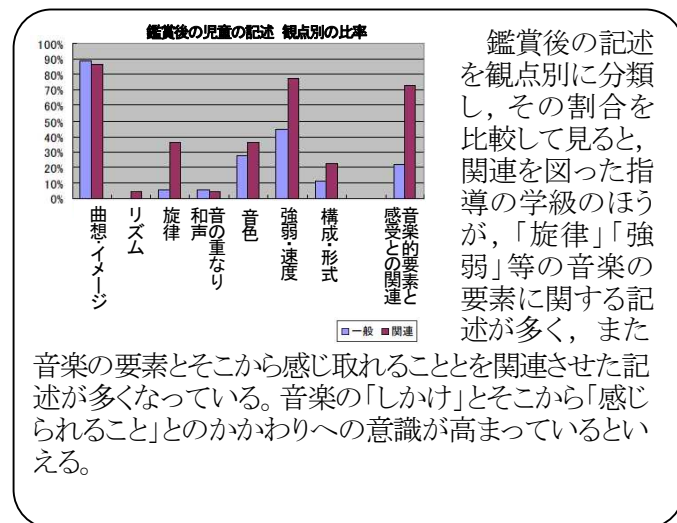
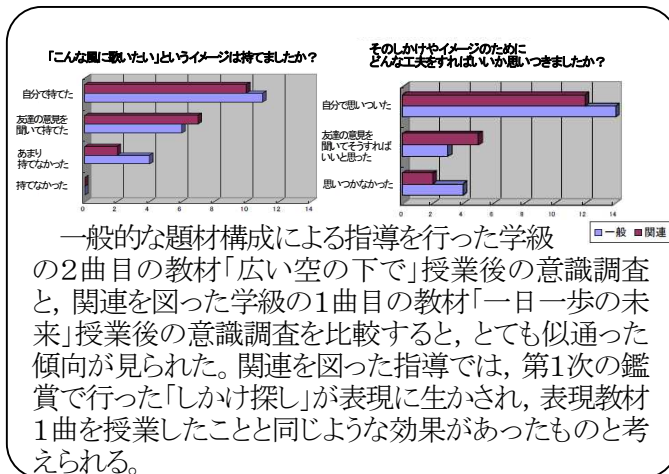
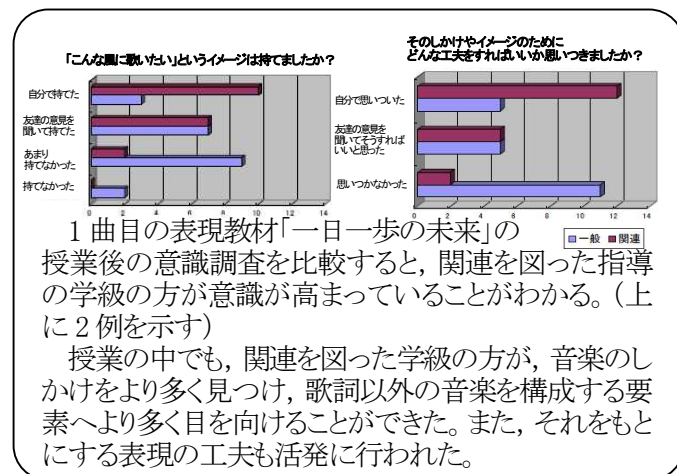
以上のことを踏まえ、検証実践を行った。対象学級は第6学年の2学級(1組 21 名・2組 23 名)、題材は「曲想を感じ取ろう」(教育芸術社刊「小学生の音楽6」より)とし、一方の組を一般的な題材構成(教科書会社刊の指導書に掲載されている題材構成)で、他方の組を今回構想した題材構成で授業を行い、次の点で比較検証をした。

- ・ 授業記録による児童の反応
- ・ 児童の学習記録
- ・ 授業後の意識調査
- ・ 題材を学習する前と後の意識調査

<題材構成>

次	時数	一般的な題材構成 (1組)			表現と鑑賞の関連を図った題材構成 (2組)		
		ねらい	教材曲	学習活動	ねらい	教材曲	学習活動
第一次	1	曲想の変化や響きに気をつけて聴いたり、表現の仕方を工夫したりする。	木星	・オーケストラの響きを味わいながら音楽を聴く。 ・気づいたことや感じたことを書き、話し合う。 ・楽器を選んで好きなパートを演奏する。	楽曲を聴き、楽曲全体の構成、音楽を特徴付けている要素と曲想のかかわりに気づくことができる。	ミュージカル「美女と野獣」より「愛せぬならば」	・曲想の変化や、曲想や歌詞の内容に応じた表現に気をつけて聴く。
第二次	2	楽曲の気分やイメージを生かし、表情豊かに合奏する。	木星	・曲のイメージや情景に合う楽器を選んで演奏する。 ・楽器の音色や響きを互いに聞きあって合奏する。	曲想や歌詞の内容を生かして表現の仕方を工夫し、表情豊かに表現する。	一日一步の未来 広い空の下	・歌詞の内容と曲の構成を理解して歌う。 ・曲想や歌詞の内容を感じ取って歌い方を工夫する。
第三次	4	曲想や歌詞の内容を生かして表現の仕方を工夫し、表情豊かに表現する。	一日一步の未来 広い空の下	・歌詞の内容と曲の構成を理解して歌う。 ・曲想や歌詞の内容を感じ取って歌い方を工夫する。	楽曲全体の構成、音楽を特徴付けている要素と曲想のかかわりに気をつけて聴いたり、表情豊かに表現したりする。	木星	・「木星」を聴き、気づいたことや感じたことを書き、話し合う。 ・「木星」の合奏をする。

<比較検証の結果>



4 研究のまとめ

本研究のまとめとして、「音楽を感じ取る」ことを「軸」とし、表現と関連の鑑賞を図った指導を行うことによる成果と課題を示す。

<成果>

- ・鑑賞活動での「しかけ探し」により、表現の工夫の方法や感じ方の変化に気づき、表現の意欲が高まった。
- ・歌唱表現の工夫で歌詞以外の音楽の要素に着目する傾向が強まった。
- ・音楽のしかけと感じ方を結びつけた鑑賞をする意識が強まった。
- ・表現の工夫や技能の獲得に対する意識が高まった。

<今後の課題>

- ① 題材・教材の開発
- ② 音楽の知覚・感受を意識した指導法の工夫
- ③ 表現と鑑賞の関連を図ることを意識した年間指導計画の作成

5 おわりに

こころの教育の充実が叫ばれている昨今、音楽教育の果たす役割は決して小さいものではない。今回の研究の成果をもとに今後も授業改善に取り組んでいき、「生涯にわたって音楽と幸せな関係を持ち続ける子ども」を育てていきたいと考えている。